

みんなの「なんな-の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)

# 信毎こども記者ニュース

発行/こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南栗町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193

no.27

## これが岡谷の蚕飼いの業!

### こども取材教室

### たんけん「信濃の国」

### 〜岡谷編〜

信濃の国 3番

蚕飼いの業の打ちひらけ〜♪  
〜養蚕も製糸も盛んになり〜

長野県で糸が一番多く作られてきた岡谷市には昔から発達してきた道具などを使うまく使って、糸をつくるすがたがあった。

**昔からの道具で糸作り**  
横内慎太郎記者 安曇野市 5年  
長野県岡谷市でひっそりと営業している宮坂製糸所。8月1日、暑さが続く中、休む間もなく糸が作られていた。諏訪式や上州式座繰機、自動繰糸機を使い、主に糸を取っていた。諏訪式で糸を作っていた製糸の道20年以上のベテラン、中山ふじさん(82)に聞いたところ、「80度のお湯が入ったかまの中で、毎日、糸を作っています」と答えてくれた。頭に汗をたらしながら、中山さんたちは朝から夕方まで働いている。



8月6日付のこども新聞でも4人のこども記者がレポートしているよ

### 暑かったりして大変

杉村奈津穂記者 松本市 5年

宮坂製糸所の諏訪式座繰機について、中山ふじさん(82)に聞きました。諏訪式座繰機は、ヨーロッパから日本に伝わった方法を工夫したもので、明治8年から使われています。ゆびわのような「糸きり」をゆびこはめて、それで糸を切るそうです。まゆ1つで取れる糸は1200~1500メートル。1本の糸を作るために約14個のまゆを使うそうです。大変なのは、まゆを煮るお湯は冬は温か感じるけれど、夏は暑いこと、1本の糸を作る時、まゆの糸が切れたりつなぐことだそうです。



こども取材教室「たんけん 信濃の国 岡谷編」が8月1日、岡谷市で開かれました。国内の製糸所を訪ねたり、手作業で生糸を取っている宮坂製糸所を訪問したり、国の製糸技術などの研究機関だった、旧農業生物資源研究所生活資料館の長に、製糸技術の発達を取材しました。



糸を取った後のサナギは入蘭が食べるか煮が食べるかどっちか。たまに食べるとおいしいよ!



宮坂製糸所のブランドマーク!

みんな手際が良くていいと思います。前から少しだけカイコに興味があったけれど、この日からもっと興味を持ちました。

御子柴さんは、上州式という方法の糸取りをやっている仕事を「好きじゃありません。仕事を「好きじゃないとできないね」と話してくれました。

岡谷市東銀座にある宮坂製糸所で、小林春美さん(68)と御子柴恵美子さん(72)に話を聞きました。小林さんは、「再繰」という仕事を5年間やっています。まゆから取った糸を、小さなわくから大きなわくへ移す作業です。新潟県の佐渡島生まれですが、岡谷市は製糸工場が多く、佐渡島まで「やりませんか」とほしゅうが来たそうです。おもしろそうだったことと、佐渡島には仕事が少ないからという理由で、製糸の仕事に入ったそうです。

岡谷市東銀座にある宮坂製糸所で、小林春美さん(68)と御子柴恵美子さん(72)に話を聞きました。

好きだからできる  
柳沢星奈記者 小諸市 5年



クラゲの遺伝子を持つカイコからとった糸。暗いところで光るんだ!



糸にふしを作る機械。好きな間かくてふしをいれられるよ



ランプシェードを作る機械を動かしてもらったよ

変わりがたネ 時代に合わせて新しい技術も取り入れてるなーの



高林千幸先生



初めておかいこさまを見ました。ほくが知っているカイコの色は白ですが、この日は、白と黒と、白黒のしまを見せられました。青虫のさなぎは細くてごっこしていますが、カイコの子が生まれたまゆは、かたくて白い丸でした。緑色のまゆもありました。クラゲのい伝子を持つ糸にもびっくりしました。さいよはおかいこさまが気持ち悪かったけど、だんだんだいじょうぶになってきました。さわれなかったけれど、見ただけでもじゅう分でした。



井上広章記者 長野市 3年



カイコ いるいる  
甲虫種の黒蛾  
↑突然変異種の橋内班蚕(白に黒い点々模様)

